

平成29年度青森県（下北地域）地域医療構想調整会議

【議事要旨】

日 時 平成29年9月16日（土）午後2時～午後4時

場 所 むつグランドホテル 1階「別館ホール」

（1）報告事項

①平成28年度病床機能報告の結果

②特定の一月における入院患者に関する調査結果

事務局から①、②について資料1-1、1-2、1-3、資料2に基づいて説明。
質疑はなかった。

（2）協議事項

①病院の機能分化・連携の方向性

②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用

③医療療養病床を有する医療機関及び介護療養型医療施設からの転換意向調査

事務局から、資料3、資料4、資料5、参考1に基づいて説明後、意見交換を行った。

○むつ総合病院

地域完結型の医療提供を目指し、高度急性期・回復期機能の充実に向け、検討をしている。

○大間病院

・今後、全病床を急性期として維持することは難しいと考えており、地域包括ケア病棟への転換を検討している。

・病床稼働率は総じて6割程度だが、冬期間はほぼ満床となるため、病床数を大きく減らすことは考えていない。

・退院支援室を設置して、関係各所と連携しており、退院から在宅医療へ向かう準備はできている。

・在宅医療に関して、訪問看護ステーションは設置していないものの、訪問担当ナースがおり、24時間対応をしている。なお、年間10件程度在宅での看取りをしている。

○むつリハビリテーション病院

昨年度、県から示された老健等への転換についての検討は、施設の老朽化の問題とともに、一部事務組合立医療機関全体の計画と併せて検討していくこととしている。

○佐井村

・大間病院からの当村の居宅への訪問診療は難しいため、病院に出向くことが多い。

・在宅支援に関しては、入退院時のカンファレンスへの立会い、地域で見守っていけるようにしている。

(3) 意見交換その1

①在宅医療等の確保の方向性

②基金を活用した補助制度

事務局から①、②について参考2、参考3に基づいて説明、各市村から参考2のP10について補足説明。

○むつ下北歯科医師会

在宅医療の普及に関して、施設に訪問診療する際の再診料の減額など診療報酬が足かせになっている部分もあると思う。

○県薬剤師会

・県からの委託で訪問調剤指導のお試し訪問を実施しているが、現時点では当支部での利用実績はなく、下北地域ではあまり在宅が進んでいないのが現状。薬剤師不足も一因であると思う。

・川内診療所と川内調剤薬局では多職種連携業務を支援するネットワークシステムを導入しており、地域の中では進んだ取組をしている。

○県看護協会

・9月に看護と介護の連携づくり委員会と共催で研修会を開催した。

(4) 意見交換その2

○保険者協議会

構想策定時に提出した意見書にある内容を踏まえて、構想実現に向けた取組を進めて欲しい。

○むつ市

資料5の「介護療養型医療施設からの転換意向調査」とあるが、この調査結果は市町村に情報提供されるのか。

⇒(事務局)市町村に情報提供することを予定している。

○歯科医師会

・歯科医師会は、かなり人数が減ってきて、高齢化が進んでいる。

・医療費抑制という大前提の中でも、医師が勤務しづらくなれないよう心掛けて欲しい。

○大間病院

・当院は医師9年目が最年長、若手6名で回している状況。専門分野が地域医療の医師なので、整形外科や小児科等が弱い。

・むつ病院には月1回でも専門の医師を当院に派遣してくれるように依頼しているが、むつ総合病院でも医師が不足しており、厳しい状況である。

・弘前では医師充足率が高いようなので、そのような地域から下北のような医師不足の地域への派遣など、人材確保を御協力いただきたい。

以 上